

兵庫県における歯科口腔保健の課題と今後の取組について

1 本県における歯科口腔保健の課題

(1) 歯科専門職の従事状況

- ① 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士は人口 10 万人対で、全国平均よりも 10 ポイント低い。
- ② 保健所設置市を除く県下 37 市町の歯科専門職の配置状況は、歯科医師は 0 名、歯科衛生士は 9 名であり、保健事業に応じて、地域活動歯科衛生士等を雇用している。

(2) 歯科医療施設の状況

在宅医療サービス、訪問歯科衛生指導の実施設数は全国平均を上回っているが、1カ所あたりの訪問歯科衛生指導の実施件数が全国平均を下回っている。

(3) ライフステージ別の課題

① 妊産婦期

○妊婦歯科健診を実施している市町は平成 25 年度で 19 市町と少なく、受診率や、受診結果等の把握が困難な状況である。

② 乳幼児～学齢期

○乳幼児のう蝕有病率は全国と比べて低い状態で推移しているが、圏域内格差が大きく、西播磨、丹波、但馬圏域で高くなっている。

○学齢期で「歯肉に所見あり」の割合が、中学 1～3 年で全国平均より高くなっている。

③ 成人期～高齢期

○歯周疾患検診の実施市町は年々増加傾向にあるが、総体的に受診者数が少ない状況である。

○全国、全県ともに成人期以降の歯科疾患の実態把握が困難である。

④ 特に配慮を要する方

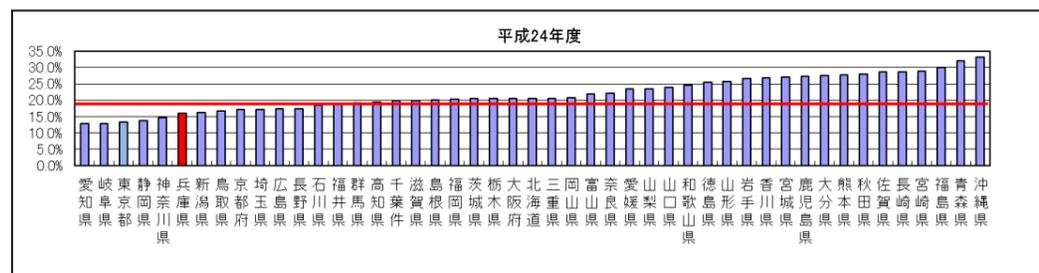
○協力歯科医師を持たない通所施設での歯科口腔保健対策の取組状況が把握できてない。

○在宅歯科診療として、訪問・往診ができる歯科診療所が少ない。

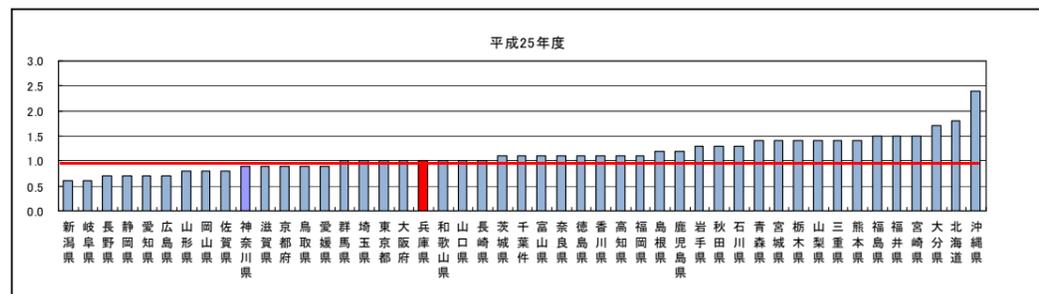
○施設等で実施する歯科健診の費用が明確化されていない。

【参 考】

◆都道府県別 3 歳児う蝕有病者率



◆都道府県別 12 歳児一人平均う歯数



2 現在の取組状況

(1) 推進体制の整備

- ① 8020 運動推進部会及び地域歯科保健対策検討会議（圏域協議会）の開催
- ② 医科歯科連携推進事業（医師・歯科医師研修、かかりつけ歯科医の普及促進講演会）
- ③ 8020 運動推進員の養成
- ④ 歯科医師、歯科衛生士を対象とした研修会
- ⑤ 市町歯科保健担当者研修会

(2) 健診結果の集計・分析

- ① 1 歳 6 カ月児、3 歳児歯科健診、保育所、幼稚園、学校における歯科健診結果調査
- ② 歯周疾患検診等結果調査
- ③ 歯科疾患実態調査（6 年毎）
- ④ 集団応用でのフッ化物洗口状況実態調査（2 年毎）
- ⑤ 都道府県、保健所設置市、市町村、特別区に勤務する歯科医師、歯科衛生士配置状況調査（2 年毎）

(3) ライフステージ別

① 妊産婦期

妊婦歯科健診実施市町への国民健康保険特別調整交付金の交付

② 乳幼児・学齢期

親子の歯の健康づくり教室

③ 成人期・高齢期

事業所歯科健診、歯周疾患検診実施市町への国民健康保険特別調整交付金の交付

④ 特に配慮を要する方

専門的歯科保健対策事業、要介護者に対する口腔ケア等指導事業、心身障害児（者）歯科対策推進事業

3 今後の取組方策

(1) 専門スタッフの人材育成

- ① 訪問歯科衛生指導が実施できるよう歯科専門職を対象に研修会を開催
- ② 歯科医師、歯科衛生士の復職支援・離職防止プログラムの検討、実施

(2) ライフステージ別の課題に対応した歯科保健事業の実施

① 妊産婦期

歯科健診チェック項目の統一化を図り、受診結果を用いて健診結果の見える化を実施

② 乳幼児、学齢期

○幼稚園、保育所、学校等における健康教育の実施状況について把握

○う蝕だけでなく、歯周疾患等について、正しい知識の普及啓発

③ 成人期・高齢期

事業所の定期健診に歯科健診をモデル的に導入し、メタボリック症候群等全身疾患との関連性を調査

④ 特に配慮を要する方

高齢者施設や障害者施設で歯科健診を行いやすいよう、健診の内容や費用を明確にし、健診からかかりつけ歯科を持ちやすいよう、県内の歯科医院情報を集約化